

◆ 第2回ワークショップ報告 ◆ 平成20年10月26日／御成小学校体育館

～みんなで考える「世界遺産おすすめルート」～

第2回ワークショップ：みんなで考える「世界遺産おすすめルート」が昨年10月26日に開かれました。

テーマは、鎌倉の世界遺産候補地を巡るルートをテーブルごとに自由な発想で語り合い、具体的ルートを考えてもらい、鎌倉の価値や魅力をさらに吟味し、確かなものにしていきたい、という狙いで設定されました。

第1回目は鎌倉の各市民層の世界遺産や鎌倉のまちに対する印象や考え方をつかんでみたい、ということでテーブルを世代別や立場別に設定しましたが、この第2回ではテーブル内で様々な世代や職業が交じり合うようなメンバー構成にしました。

独創的・魅力的で、しかも一般性もある良い案を出してもらい、また広い目配りができるよう、世代・立場の異なるメンバー同士が活発に議論・検討し合う場に、可能性を求めました。さらに今回は東京や横浜など、市外の参加者が前回より増えたことも、一つの特徴でした。それは今回のようなテーマに取り組み、具体案を考え出すチームを組むためには、きわめて望ましいことでした。

当初、主催者側には、このような多彩なメンバーが初顔合わせで、わずか半日の話し合い+作業でまとまるルート案がまとめられるだろうか、という懸念もありました。

しかしそれは参加者たちの情熱、前回に続くテーブル進行役たちの手際、コメンテーターの宮田一雄

さんと東京大学の赤川学先生の適切な助言や評、主催側のテーブル参加者のフォローなどが、実にうまく噛み合い、杞憂に終わりました。出てきた案はバラエティに富み、それぞれが特徴を持っていて説得力あるものでした。

6テーブルから出てきた案は、「武家政権の痕跡をたどるルート、辻子ふれあいルート」、「おもてなしルート、世界のお客様用と日本の若者用」、「贅沢・健脚・全資産ルート、北条氏ゆかりのルート」、「鎌倉観光・王道コース、海と山・自然を楽しむコース」、「禅の道・若者の道・健脚の道」、「ゴールデンコース」などでした。

鎌倉のエッセンスのみを見るルートから、5日間かけて全候補資産を巡る案まで、人々のさまざまな要望に応えられるルート案が出そろいました。

ワークショップ報告書はすでにできていて、興味ある方は協議会事務局に連絡をすればお渡しできますが、中から幾つかのコメントをご紹介します。「重要なのは、訪れたときに住む人たちの笑顔が輝いていること、その土地を訪れたことを良い思い出として残し続けていただくこと・・・『おもてなしの精神』、ホスピタリティが住民の側にも問われているのだと思います」（赤川）、「点を線で結んでいくルート作りの作業には、古都の持つ重層性、ふところの深さ、古さが生む新しさといったものの魅力を引き出す可能性が秘められています。点に比べ線ははるかに多くの余剰を抱え込むことが可能自在に時間の軸を縫っていく形でルートを生み出せる・・・鎌倉は海を抱えた古都であるところが大きな魅力」（宮田）、「また各テーブルからは「鎌倉に詳しい人、女性・外国人、若者の3つの視点からうまく調和してルートを設定できた」（A・田川）、「海外のお客にはまず大仏、昼を挟んで次に鶴岡八幡宮、その後甘味やお買い物、宿泊場所がほとんどない鎌倉では半日しか時間がとれない」（B・長谷川）、「より深くより具体的に鎌倉の遺産について考える機会」（C・山崎）、「短い間でしたが、楽しい雰囲気の中で豊かな議論と交流が行えた」（D・横川）、「作成に至る活発な議論に意味がある・・・鎌倉の世界遺産登録の進め方にも相通じる」（E・高木）、「パワーと頭の柔軟さ、勢いがある青年達の力も必要、と痛感」（F・大竹）

以上はほんの断片ですが、ワークショップの様子を幾分かでも感じていただければと記しました。



Bテーブルが提案した「おもてなしコース図」(報告書5Pより転載)